

個のよさを生かす学級づくり

— 授業の中での出番づくり —

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の仮説	2
III	研究の全体構造図	2
IV	研究の内容	3
1	学級経営のとらえ方	3
(1)	学級経営	3
(2)	教師の姿勢	3
(3)	学級経営の内容	4
2	「個のよさを生かす」方法	4
(1)	「個のよさ」の定義	4
(2)	「個のよさ」の生かし方	4
(3)	「個のよさ」を生かす学級担任の仕事	5
3	「個のよさ」を生かす班活動のあり方・進め方	6
(1)	班活動の利点	6
(2)	班として活動するのに適した場面	6
(3)	班編成にあたっての留意点	7
4	「個のよさ」を生かすほめ方・叱り方	9
(1)	教師の話し方	9
(2)	タイプ別のほめ方	9
(3)	叱り方	10
5	学級づくりと学級通信	10
(1)	学級通信の内容と書き方の工夫	10
(2)	活用の仕方	11
6	学級経営案	12
V	授業実践	15
1	題材	15
2	題材設定の理由	15
3	題材の指導目標	15
4	評価の計画と方法	15
5	教材について	16
6	児童の実態	16
7	指導計画	16
8	本時の指導	17
9	授業の反省	18
VI	研究の成果と今後の課題	20
	< 主な参考文献 >	20

宜野湾市立志真志小学校

新垣 トシエ

個のよさを生かす学級づくり

— 授業の中での出番づくり —

宜野湾市立志真志小学校 教諭 新垣 トシエ

I テーマ設定の理由

これからの教育は「個性の重視」「豊かな心」「自己教育力」そして「国際社会を主体的に生きる人間の育成」に努めなければならない。そのどれも「個のよさを生かす学級づくり」と深い関係があると思われる。

また本校の教育目標では「豊かな人間性を培い、心身ともに健康でたくましい子どもの育成」の具現化のための指導の工夫と改善が重要になっている。

わたしはこれまで学級経営の中で「個のよさ」を生かすために次のような工夫をしてきた。

- 授業中の発表はハンドサインをさせ、同じ子にかたよらないように指名する。
- 学級通信には
 - ・ 日記に、その日の行事やできごとに題をつけさせて書かせ、その中から特色のあるものを翌日の学級通信にのせる。
 - ・ その日のホットなニュースや父母の声ものせる。
 - ・ 家庭学習一冊おわった子、読書カード一枚おわった子をその都度紹介する。
 - ・ 学級通信の題字やイラストを一人一人交代で書かせる。
 - ・ 名前表にチェックして記事や日記がのった子が重ならないようにする。
- お誕生カード（全員がその子の良いところを見つけてカードに書き、一冊の本にする。）
- 帰りの会で、今日一日どんないいことがあったか発表する。
- 教室環境（読書の山登り・各係新聞・季節感のある背面掲示・ありがとうの花かご）…等。

しかし授業中の「個のよさ」を生かす手だてがあまりなされてないことに気がついた。そのため自分の個性が出せなかったり、相手のよさを見つけよう、認めようとする事ができない子がみられた。

このような問題を解決するには、各教科・道徳・特別活動の中で、どの子にも出番を用意し、しかも相手と学び合える環境をつくる必要があると考えた。すなわち、子どもが自分のよさを生かして活動するだけでなく、ともに学ぶ相手のよさに気づき、そのよさを認め励まし、自己に取り込んでいけるような学級づくりが求められる。

したがって、学校生活の中で「個のよさ」を生かすには、

- ・ 授業の中での出番づくりの工夫（個を生かす場・班活動・ほめ方叱り方）
- ・ 見通しを立てた学級経営案の改善
- ・ 「個のよさ」をとりあげる学級通信の内容・書き方の工夫と活用の仕方

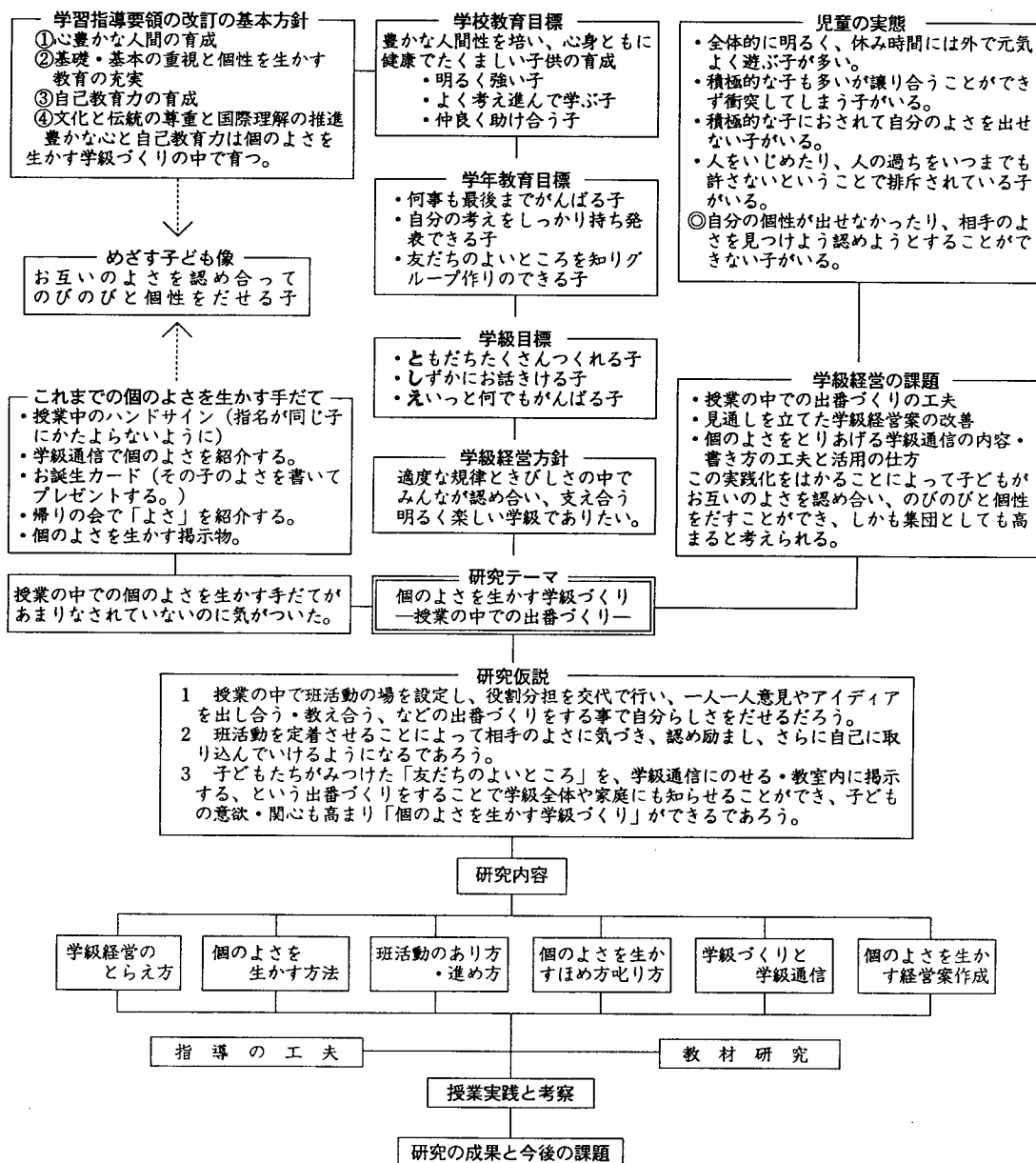
等の具体的な手だてや場の設定を中心において研究を進めていきたい。

この研究の実践化を図ることによって子どもがお互いのよさを認め合い、のびのびと個性をだすことができ、しかも集団としての質も高まると考え、本テーマを設定した。

II 研究の仮説

- 1 授業の中で班活動の場を設定し、役割分担を交代で行い、一人一人意見やアイデアを出し合う・教え合う、などの出番づくりをする事で自分らしさをだせるだろう。
- 2 班活動を定着させることによって相手のよさに気づき、認め励まし、さらに自己に取り込んでいけるようになるであろう。
- 3 子どもたちがみつけた「友だちのよいところ」を、学級通信にのせる・教室内に掲示する、という出番づくりをすることで学級全体や家庭にも知らせることができ、子どもの意欲・関心も高まり「個のよさを生かす学級づくり」ができるであろう。

III 研究の全体構造図



Ⅳ 研究の内容

1 学級経営のとらえ方

(1) 学級経営

学級経営とは、学級を場とする児童の人間形成、より望ましい成長発達の過程を、計画化し機能化する営みであり、基本的には二つの側面からのアプローチが考えられる。

第一には、教科、道徳、特別活動即ち正規の教育課程による児童の望ましい成長発達の実現である。各教科、領域は、それぞれ固有の目標、内容、方法をもちながら、究極は全人的な人間形成を目指しているものである。

第二には、正規の教育課程も含めた学校生活の諸々の場における成長発達の過程である。登校、休憩時、遊び、清掃などの当番活動、放課後の時間などにおけるいわばインフォーマルな活動の中に人間形成の機会や場が数多く存在する。(遊びを通して友情・連帯・相互信頼などの人間理解が深まる、清掃当番の仕事を通して責任とか協力の意味や行動の仕方がわかる等)

(2) 教師の姿勢

① 担任教師の直接的な仕事としての正規の教育課程の編成と指導の工夫をしていく。またその効果をあげるために学校生活の諸々の場面における活動を通して相互の理解や信頼を深めたり、好ましい学級の雰囲気をつくるために情熱と意欲をもって、学級経営を計画的に意図的に推進していく。

② 学級が子どもにとって安心して生き生きと「個のよさ」を出せる場となるように、何よりも先ず、支え合い、認め合う温かい支持的な風土をつくり、「先生や友だちが好きで学校は楽しい。」と誰もが言えるような学級づくりを目指す。

③ 支持的な風土を育てるための教師の心がけ

- ・ 子どものよいところを見つけだしほめる。
- ・ 子どもの失敗やまちがいに對して、励まし、カづけていく。
- ・ 支持的な風土を壊すような子どもの言動は、毅然とした態度で否定する。
- ・ 多角的で形成的な評価に心がけ、画一的で単純な「勝った、負けた」を避ける。
- ・ 「ありがとう(感謝)」「ごめん(謝罪)」「おいで(勧誘)」「よかったね(共感)」といった言葉が、子どもたちの間によくでるようにする。



学級づくり10箇条

- ① 子ども一人一人の心のよりどころとなり、支えとなる学級をつくろう。
 - ② 子ども一人一人の個性や願いを、それぞれ大切にしよう。
 - ③ いろんな集団場面に応じて、どの子もリーダーになれるようにしよう。
 - ④ 自由な考えやさまざまな考え方を、大切にしよう。
 - ⑤ まちがいやつまずきを恐れず、それを糧にして、のびていくよう励まそう。
 - ⑥ 集団で創り工夫していく喜びを、見つけ、求め、大きくしていこう。
 - ⑦ お互いに助け合い、力を合わせ、支え合う風土をつくろう。
 - ⑧ 自分には厳しく、相手には思いやりを、という心がけを育てていこう。
 - ⑨ どの子の人権をも尊重し、どの子にもあるよさ(可能性)を引きだそう。
 - ⑩ 最終的には、集団も個人も、一人立ち(一人歩き)できることをめざそう。
- ※以上のことを、なによりも教師自らが身につける(人格化する)ようにしよう。

(3) 学級経営の内容

- ① 基本的事項……学級目標の設定、児童の実態把握、学級経営計画の作成、学級の諸活動、班・係活動の組織、学級経営の評価と改善など。
- ② 指導要領的事項…学級における教科、道徳、特別活動の効果的な指導、運営、日常的な指導など。
- ③ 集団経営的事項…個の把握と援助、教師と子どもの人間関係、学級集団づくり、生活指導・教育相談など。
- ④ 経営条件的事項…教室設営、学級事務、学校・学年経営との連携、父母・地域等との連携。
- ⑤ 重点的事項……その学級で特に力を入れて指導している内容あるいは特色のある活動。

2 「個のよさ」を生かす方法

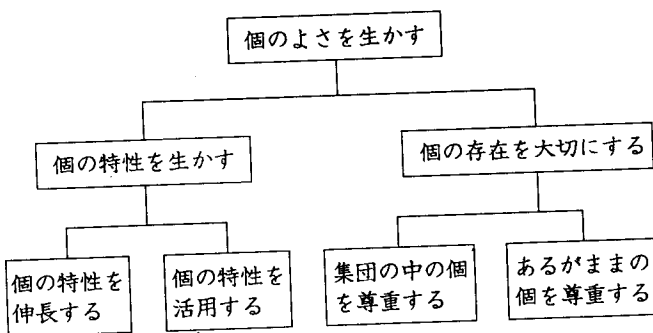
(1) 「個のよさ」の定義

- ① 独自性・内面性（独自性とは「その子らしさ」であり他人の関わることのできない部分、その子の内的世界である。子どもたちのその子らしさが尊重され、その内的世界を豊かにしていくことが個性の内面の伸長である。）
- ② 社会性（個の独自性は、それだけで価値ある存在とはいえない。社会性とのバランスを得て、はじめて価値ある存在となる。つまり、社会的に是認され、集団メンバーに貢献できることで有効なのである。）
- ③ 自主性・創造性（個が集団に埋没しないためには、表現や役割による自主的創造活動が展開されなければならない。）

「個のよさ」は集団をはなれては存在しない。集団は「個のよさ」をうむ媒体であり、「個のよさ」がまた、集団の質を高めていく。その意味で、独自性と社会性は、車の両輪である。もう一つの、自主性・創造性は、活動そのものの内的エネルギーである。他人のものまねや与えられたことをくり返すという活動では、「個のよさ」を見つけることはできないと考えられる。

(2) 「個のよさ」の生かし方

① 「個のよさ」を生かす教育の理念



「個のよさ」を生かすということは「個の存在を大切にすること」と「個の特性を生かす」ということの調和の上に成り立つことである。つまり、子どもの現状をあるがままの存在として受け止め、多様な可能性を引き出し伸ばすことにより、独自のなよりよい存在に高まる子どもの努力を支援することである。子どもは学習者として

意図的な指導をうけている。それと同時に、いわば生活者として、個々のそれぞれに得たチャンスに、いつでも、どこでも個性・能力を発揮するかもしれない存在である。

② 「個のよさ」を生かす学習活動

「個のよさ」が生きる学習活動とは、主体的に学習に取り組み、互いに持ち味を出し合い認め合い、支え合うことができる学習活動のことである。基礎・基本の習得の過程においても子どもたち一人一人の見方や考え方、感じ方などの個性を生み出す基になる大切な要素である「思考力、判断力、表現力、創造力等の能力」を重視する必要がある。さらに、習得の過程に、子どもたちの学習内容に対する興味・関心の違いや、見方や考え方の違い等に見られる個人差を、かけがえのない「よさ」として重視し、生き生きとした活動を継続的に展開させる中で、「よさ」が生かされ、伸長するように指導を行うことである。

(3) 「個のよさ」を生かす学級担任の仕事

① 授業で「よさ」を認める。

- 授業の中で全員参加できる出番をつくり、自分の「よさ」を出したり、相手の「よさ」を知り、自分に取り入れたりする。
- 授業の中での出番づくり
班役割・班内での発言・自分の考えをノート等を書く・教え合う・全体の場での発表
表情・身体表現・観察する・本を読む・作品をつくるなど

② 係活動や学級行事で「よさ」を生かす。

- 係活動では、一人一役制とし、人数分の係を作り、やりたい係を自分で選ぶ。重なった場合はジャンケンで決める。
- 学級行事の準備・運営をするとき、全員に一つの仕事があるようにする。
- 一人一役にするとより多くの子が自分の得意なことや好きな分野での仕事をし、その子の「よさ」が発揮される。

③ 学級通信で「よさ」を認める。

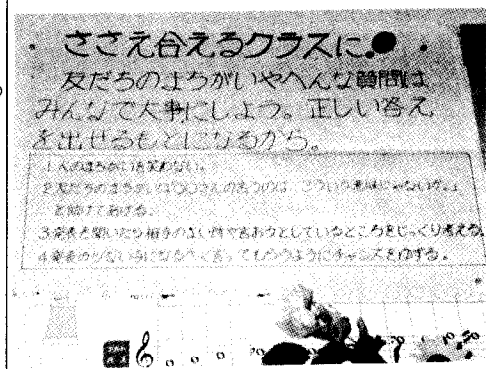
- 子どもの「よかったこと・伸びたこと・がんばったこと」をみつけて、学級通信で紹介する。(幾号かに分けて全員が紹介されるように配慮する。)
- 学校生活の中でみられたささやかな「よさ」を紹介する。
- 「個のよさ」を生かすコーナー(カット・自筆の文)に順番よく参加させていく。

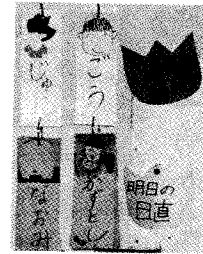
④ 「よさ」をのびのびと出せるような雰囲気(支持的な風土)をつくる。

支え合う学級に

友だちのまちがいやへんな質問はみんなで大事にしよう。正しい答を出せるもとなるから。

- 1 人のまちがいを笑わない。
- 2 友だちのまちがいには「〇〇さんの言うのは、こういう意味じゃないか」と助けてあげる。
- 3 発表を聞いたら相手のよいところや言おうとしていることをじっくり考える。
- 4 発表の少ない子になるべく言ってもらうようにチャンスをゆずる。





⑤ 「個のよさ」を認め合うまでのステップ

- ・ 本人も自覚している「よさ」を十分に認め伸ばす。
- ・ 本人や友だちや親も気づかない新たな「よさ」を認める。
- ・ 教師が認めた「よさ」を友だち、親へと広げていく。

※ 一人一人が前からもっていた「よさ」を強調し、さらに新たな「よさ」を認めるようにすると、学級に一人一人を仲間として認める気持ちや学級としてのまとまりができてくると考えられる。

⑥ 子ども一人一人が「よさ」を認め合う場をつくる。

- ・ 学級日誌や班ノートなどの記入により、友だちの「よさ」を見つけさせる場
- ・ 帰りの会で、一日の生活で見つけた「よさ」を子どもに発表させる場
- ・ 学期末などの相互評価をさせて友だちの「よさ」を見つけさせるような場
- ・ 学級通信で教師が子どもの「よさ」を示すことによって、みんなや家庭でも認め合えるような場
- ・ 賞を設定し、みんなに友だちの「よさ」を見つけさせる場（係活動でミニ賞状を作る）
- ・ みんなが見つけた「よさ」をその子に知らせる場（お誕生カード）
- ・ 見つけた「よさ」を掲示し学級のみんなにも知らせる場（かがや木）

—— かがやきの木 ——

友だちの きがついたよいところ
やさしさ
がんばり
よいかんがえ
を見つけたら「かがやきの実」を
つけてあげよう。

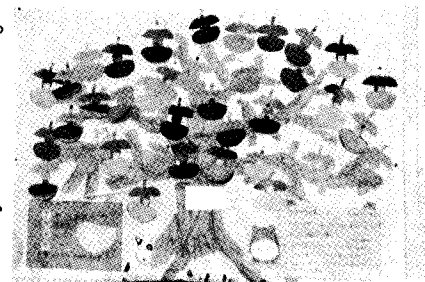
—— 「かがやきの実」を書くときの三つの約束 ——

- 1 「かがやきの実」には、月日・名前・見つけたよさをていねいに書こう。
- 2 「かがやき見つけメガネ」をかけて、学級全員のよいところを見つけよう。
- 3 なるべくちがう「かがやき」を見つけよう。
(同じ日に同じ実はつけないように・・・)

3 「個のよさ」を生かす班活動のあり方・進め方

(1) 班活動の利点

- ① 子どもたちが互いに、早くしかも深く理解しやすい。
- ② 一人一人が創意・工夫しやすい。
- ③ メンバーの個性をいっそう伸ばしやすい。
- ④ 学級全体が協力し、まとまりやすい。
- ⑤ 学校の学習や生活は上から与えられたものではなく、自分たちのものだという自覚が生まれやすい。



(2) 班として活動するのに適した場面

- ① 各班ごとにいろいろなモノをつくる。(実験・共同作業・共同創作など)
- ② 各班ごとにいろいろな話し合いをする。考えを出し合ったりまとめたりして、学級全体に報告する。(班内の役割分担)
- ③ 各班ごとにいろんな練習をする。(計算の答え合わせ・器械運動の練習)

④ それぞれの授業に各班が係活動として参加する。

- ・ 授業の準備の手伝い・その教科の宿題調べ
- ・ 慣例になっている学習をリード（漢字・計算の小テスト・ドリル）

班活動の心得（子ども）

- ① 一人一役（司会・記録・発表・連絡）
- ② 班内の役割分担は一週間で交替する。
- ③ 班のメンバーのやっていたことをよく見てよいところを取り入れ自分なりに工夫する。
- ④ 友だちからの期待と注文に応える。
- ⑤ 班と班、班と学級全体の連絡は班の中の係がやる。
- ⑥ 班替えのときは、励ましと忠告をする。
（笑顔で別れる。手紙を一人一人におくる）
- ⑦ 友だちのよさを発見し認める。
（発表・作文）

班内での役割分担（話し合いの時）

司会…何を考え、話し合うか伝える・一人一人に考える時間をあげる・一人一人の意見を順番に聞く。

記録…みんなの意見でにているものはひとつにまとめて記録する。ちがう意見も班の意見として記録する。

発表…班の意見を代表して発表する。

連絡…先生やほかの班との連絡をする。

（質問・伝言・用紙を取るなど）

※ 一つの班は4～5人で編成する。一週間交代でどの役割も経験する。

班活動の心得（教師）

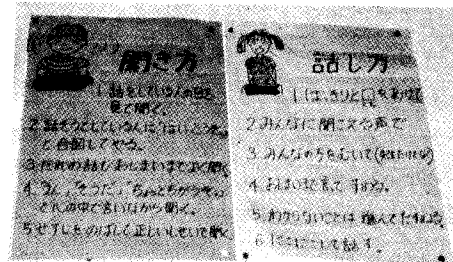
- ① 朝の会や帰りの会や学級会に班活動の場を多くする。
- ② 班替えの時期は予告し、それまでは変更しないのが原則。
- ③ 班競争は班活動の一つとしてあるがすべてではないと考えられる。

※ 班競争について

ア 意欲づけだけに用いて勝ち負けの結果を示さない。

イ 指導の初期にほんの少し使う。

ウ 勝ち負けの結果を示しても個人や班の努力しだいでよい結果が簡単に得られる場合、個人の能力や学習の積み重ねに還元できるものあるいはチームワークそのもので勝ち負けができるものには用いてもよい。



(3) 班編成にあたっての留意点

- ① ソシオメトリックテストやゲス・フー・テストにより人間関係を調査する。
- ② 選択が多く、信頼され、指導性のある子を班に配置する。
- ③ 学級内で、もっとも排斥の多い子（問題児）から作業を進める。
- ④ 問題のある子は、その子が選択している子の中で、もっとも指導性があり人間的にも、まるみのある子と組み合わせる。
- ⑤ 問題を抱えた班は教師のかかわりやすい位置に置く。
- ⑥ 班替えは慣れてきたら月に一回とする。



【ソシオメトリックテスト】

- ① あなたは、このクラスの中でだれと一緒に勉強したいですか。したいと思う順に3人書いて下さい。そのわけも書きましょう。
- ② あなたはこのクラスの中に一緒に勉強したくない人がいますか。もしましたら、その順に3人まで書いて下さい。そのわけも書きましょう。

①	なまえ	そのわけ	②	なまえ	そのわけ
1	○○○		1	○○○	
2	○○○		2	○○○	
3	○○○		3	○○○	

【ゲス・フー・テスト】

人と相談しないで、自分の考えたとおり書いて下さい。先生だけで誰にも見せません。
下の一つ一つを読んで、この学級の中でだれがそれにあてはまるかを、日ごろ感じているところから書きましょう。

こういう子は	だれですか？		
1 学級の中でいろんな子と仲良くすることができる子は			
2 その反対に、人をいじめたりして仲良くしない子は			
3 人のあやまちをゆるしてやれる子は			
4 いつまでもおこって人のあやまちをゆるさない子は			
5 勉強やそうじのとき、友だちと力を合わせてやれる子は			
6 自分勝手なことばかりする子は			

【ゲス・フー・テスト集計】

項目	児童番号					
	1	2	3	4	5	6
①学級の中でいろんな子と仲良くすることができる子は	3	3	2	1	3	1
②その反対に、人をいじめたりして仲良くしない子は	-1	-2	0	-1	-3	-1
③人のあやまちをゆるしてやれる子は	4	3	0	1	3	2
④いつまでもおこって人のあやまちをゆるさない子は	0	-6	0	-2	-3	-3
⑤勉強やそうじのとき、友だちと力を合わせてやれる子は	3	1	0	2	1	0
⑥自分勝手なことばかりする子は	0	-5	-2	0	-5	-6
計	9	-6	0	1	-4	-7

※ 望ましい人物、行動の方に反応したものにプラス1点(①③⑤)
望ましくない人物、行動として挙げられた場合はマイナス1点(②④⑥)
(点数が高いほど社交性がある。)



4 「個のよさ」を生かすほめ方・叱り方

(1) 教師の話し方

- ① ばくぜんと全体を見るのではなく一人一人の目を見つめて話す。
- ② 大人のていねいな言葉ばかり使わない。子どもに通じる言葉で話す。
- ③ 大声で早口にしゃべるのはよくない。静かにゆっくり、少なめに話す。
- ④ 一方的に話すのではなく問いかけるように話す。

(2) タイプ別のほめ方

子どもはほめるとやるき気を起こす、生き生きする、心が安定する。だから大切である。

タイプ	ほめ方
友だちとトラブルの多い子	<ul style="list-style-type: none"> ・教師だけでなく、子どもたちに良いところを見つけさせる。 ・友だちと協力したり、他人のためになることをしたりした場合は、特によくほめる。
自信過剰の子	<ul style="list-style-type: none"> ・「一番よくできるのは自分だ。」とっていて、もっとできる人もいる、もっとできる方法もある、というところまで考えが及ばないところが問題。 ・今のその子の状態を理解し認めた上で、そのことが最上なのかも一度振り返ってみることに気づかせていきながら、プラス面を認め、ほめていく。
みんなから嫌われている子	<ul style="list-style-type: none"> ・その子と同じ立場に立って、心をこめて話を聞いてやり、本人の心の叫びを受けとめてあげる。 ・どんな小さなことでも認めてほめてやり、本人も他の子にもその子の良いところや存在価値を自覚させていく。
おせっかいな子	<ul style="list-style-type: none"> ・その持ち味を生かすため学級のリーダーとしてほめる。 ・大勢の前ではほめるのではなく、短く事実を捉えながら、そっとほめる。
みんなといっしょにできない子	<ul style="list-style-type: none"> ・理解するのに時間がかかる子…自信をつけさせるため、誰がやっても余り差のない具体的、経験的な場面ではほめる。 ・作業や行動の遅い子…注意すると緊張してしまうので、遅い反面丁寧さが見られるときほめる。その後、速く作業や行動することのよさを教える。 ・わがままな行動が多い子…自制心を働かせた場面をとらえて、たくさんほめる。ほめることで、がまんすることの大切さを自覚させる。 ・友だちの輪に入れない子…担任が手を取り、友だちと行動する楽しさを体感させる。その子の「よさ」に結びついた課題を課し共同作業・学習の際にほめる。
反抗する子	<ul style="list-style-type: none"> ・良いところは、口に出してわかりやすく本人に伝える。頭ごなしに叱らず必ず言い訳を聞く。いけないところはやさしくさとすように指摘し、本人自身が反省するよう見守る。(などを教師と父母で確認しあう。)
ひねくれている子	<ul style="list-style-type: none"> ・「いけません」は逆効果。ある程度突き放してみても自分の力でやったことがあったらほめる。場合によっては一人でやり抜く仕事を与えて担任と一緒にやってみるのもよい。

(3) 叱り方

① 感情的にならない

子どもを叱るということは、「ある言動を禁止するために叱る」、「好ましい言動への動機づけをするために叱る」、という二つの面をもった行為であるので、教師は常に『この子のために』という気持ちをもって叱らなければその効果は期待できない。

② 冷たい叱り方をしない

叱るときは、子どもとの心を通い合わせながら叱る。そのためには、まず教師が子どもたちに対して温かい心で接することである。



③ 人前で叱るときは、十分な配慮を

子どもたちの自制心を傷つけ、人前で恥をかかせるようなことは決してよい結果は期待できない。相手の性格を考えて一対一で叱るか、人前で叱るか考える。

④ そのときの気分で叱らない

子どもを叱るということは、子どもの価値判断の基礎を確保する為にとっても大事な行為である。だから、一貫性をもつ・反復する、ということをしっかりおさえて叱る。

⑤ ながながと叱らない

教師の一方的な叱責や説教などながながとやってもまったく効果がない。できるだけ短時間で簡潔にわかりやすく、一度に一つのことで子どもたちの心に訴えるように叱っていくことが大事である。

5 学級づくりと学級通信

(1) 学級通信の内容と書き方の工夫

① 内容

- ・ 子どもたちの肯定的な面（よさ）を優先してのせる。
- ・ 子ども「よかったこと、伸びたこと、がんばったこと」を見つけたその日にのせる。
- ・ 学校生活の中で見られたささやかな「よさ」をのせる。
- ・ 子どもたちの行動や考えをのせることで子どもたちの様子を知らせる。
- ・ 父母の感想や意見をのせる。
(参観日や行事等の感想、日頃感じていること等)

② 書き方の工夫

- ・ 子どもの日記や作文・作品等は、自筆のままのせる。
- ・ 「個のよさ」を生かすコーナーを作り、全員順番に原稿を書く。(絵・自己紹介等内容は自由)



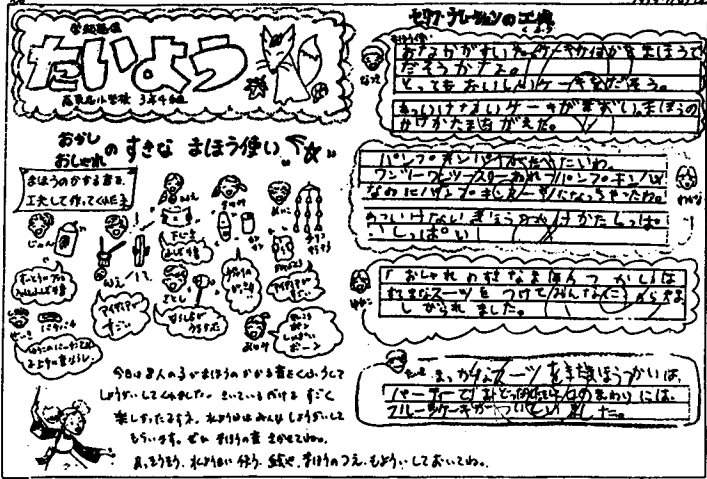
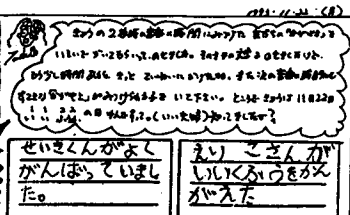
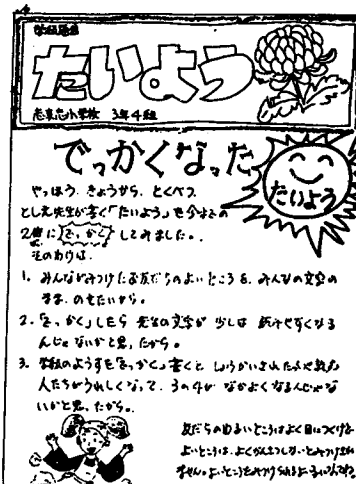
- ・ 主に子ども向けに書くが、時には父母向けのコーナーを設ける。(家庭へのお願いやお知らせ)
- ③ 取材のしかた
 - ・ 学級の子どもたち全員に書かせ、幾号かに分けて全員のせる。(学期ごとのめあて)
 - ・ 学級・学年や全校の行事について、書いてみたい子や書かせてみたいと思った子に書かせる。(同じ子に重ならないように名前表にチェックしておく。)
 - ・ 父母に書いてもらう場合は、学級通信で呼びかけたり、子どもたちに「このことについて、お父さんやお母さんの感想を書いてもらってきてほしい。」と話して頼む。

(2) 活用の仕方

- ① 子どもの様子や「個のよさ」を学級通信で紹介し、学級全体や家庭にも知らせる場として活用する。
- ② 家庭で学校の様子を話し合う話題のきっかけとして活用する。
- ③ 教師・父母・子どもたち三者共通の広場として活用する。
- ④ 子どもに読んでやることにより、学級がどのように発展しているか、どのようなことが大切かを知らせ、指導の場として活用する。
- ⑤ 上のように活用していくことによって、子どもの意欲・関心も高まり、お互いのよさを認め合い、のびのびと個性を出し、集団としての質も高まっていくと考えられるので、「個のよさ」を生かす学級づくりに役立てていく。



<キーボードで楽しく演奏>



<役になりきっている子どもたち>

6 学級経営案

3年4組 新垣 トシエ

教育目標	豊かな人間性を養い、心身ともに健康でたくましい子どもの育成 ・ 明るく強い子 ・ よく考え進んで学ぶ子 ・ 仲良く助け合う子	学年目標	・ 何事も最後までがんばる子 ・ 自分の考えをしっかりと持ち、発表できる子 ・ 友だちのよいところを知りグループづくりのできる子																	
学級目標	・ ともだちたくさんつくれる子 ・ しずかにお話させる子 ・ えいっと何でもがんばる子	子ども像	お互いのよさを認め合っ てのびのびと個性をだせる子																	
担任の願い	子どもにこう言わせたい 「学級でやる勉強がよく分かり、おもしろくてたまらない。」 「先生や友だちがとても好きでたまらない。」																			
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性を大切にしながら、支え合い、認め合う温かい支持的な風土のある学級にする。 学習や係活動などで班活動を取り入れ、子どもの出番を多く用意する。 自分は認められているという実感を全員に与えられるように心がける。 他人を嘲笑するような態度は、毅然として否定する。 																			
学級の 実態	① 在籍	宜野湾	長田	我如古	佐真下	区外	合計	② 家庭環境	父子家庭	0										
		男	6	6	5	0	0	17	母子家庭	0										
		女	6	7	2	2	0	17	要保護	0										
		計	12	13	7	2	0	34	準要保護	0										
	③ 放課後の実態	部活動	野球 (K・S・Y) サッカー (T) バスケット (A・N)																	
	スポーツ	水泳 (T・T)																		
	習いごと	ピアノ (JNMMHM) 習字 (JTAK) そろばん (MJ) おどり (J)																		
	学習塾	英語 (J・M) 公文 (K・Y・W・M)																		
		進研ゼミ (N) 学研 (K)																		
④ 保護者職業	会社員	公務員	自営業	サ ー ビ ス	設 計 士	修 理 工	薬 剤 師	銀 行	土 建 業	農 業	漁 業									
	11	9	1	5	1	1	1	1	2	1	1									
⑤ 児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に明るく、休み時間には外で元気よく遊ぶ子が多い。 進んで発表したり、お手伝いをしたりする積極的な子も多いが譲り合うことができず衝突してしまう子がいる。 積極的な子におされて自分のよさをだせない子がいる。 人をいじめたり、人の過ちをいつまでも許さないということで排斥されている子が2人いる。 食物アレルギーのため食事制限している子 (H) 1才の頃の小児マヒのため左半身の動きがにぶい子 (S) (体育など配慮が必要) 																			

	<p>① 主体的に考えて行動することのできる子を育てる学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の仕方や態度を身につけさせる。 (支持的な風土づくり・班活動・聞き方・話し方・ノートのとり方) ・ 「個のよさ」を生かす工夫をする。 ・ 友だちが困っているとき、助け合うことができるようにする。 ・ 友だちの「よさ」を認め合うことができるようにする。 <p>② 教育機器の使用により授業の効率化を図る。 (OHP・ビデオ・パソコン・テープレコーダー)</p> <p>③ ノート、作品の評価を適時に行い、個別指導をする。</p> <p>④ どの子にも基礎学力の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算力や漢字を書く力をつけるために、毎時間五分間小テストをする。 ・ 作文力をつけるため、毎日日記を書かせる。 ・ 読書力をつけるため図書室の積極的な利用を図る。また学級文庫をつくる。
指導	<p>○本読みを毎時間全員にさせる。(連れ読み・一斉読み・リレー読み)</p> <p>○本読みカードを使って家庭でも毎日音読をさせる。</p> <p>○視写を重視する。一単元が終わるときには全文が視写できるようにする。</p> <p>○漢字進級テストをつくり、毎日5題ずつ覚えていけるよう励ます。</p> <p>○漢字ゲーム・パズルや言葉遊びを取り入れ、言語習得の楽しさを教える。</p>
社会	<p>○サイクル学習(事実確認→予想→課題づくり→調べるまとめる)を取り入れる。</p> <p>○「足でかせぐ」(体得)学習を目指し、見学・調査に多くでかける。</p> <p>○紙芝居や新聞を作る。</p> <p>○学期一回は班で調べたことの発表会をする。</p>
力点と数	<p>○四則計算が確実にできるようにする。</p> <p>○算数嫌いを作らないために導入段階を工夫したりゲーム・パズルを取り入れる。</p> <p>○操作活動を重視する。</p> <p>○文章題を自分で作らせる。</p> <p>○定規をいつも使わせる。</p> <p>○毎時間2、3問の小テストをさせる。</p>
理科	<p>○イラストと文を使って自分の考えを書けるようにする。</p> <p>○「もの」をたくさん用意しさまざまな発想がでてくるようにする。</p> <p>○教室に生き物を飼う。</p> <p>○学習活動が授業外に広がるように工夫する。</p>
音楽	<p>○楽しく歌うようにさせる。毎日歌声がある教室にしたい。(今月の歌学級の歌)</p> <p>○縦笛指導をていねいに。最低10曲はどの子もレパートリーをもてるように練習させる。</p>
図工	<p>○大きく表現させる。</p> <p>○最後までていねいに仕上げさせる。</p> <p>○「キミ子方式」を取り入れる。</p>
体育	<p>○他の子と比較するのではなく、自己の成長のあとを自覚させ、大事にしたい。</p> <p>○子どもたちが一丸となってできるゲームをする。</p> <p>○場の構成を工夫し、楽しくかつ量多く運動できるようにする。</p>
道徳	<p>○自分を大切にするとともに個性の違う他人の存在も大切にし、よりよく生きようとするための基礎としての道徳性を養う。</p> <p>○一人一人の発言を常にうけとめる。</p> <p>○支持的な風土づくりをするための手だてとする。</p>
特活	<p>○毎日の生活を自分たちの手で楽しく進めて行くための活動を充実させる。</p> <p>○一つ一つの行事のねらいを明確にし、子どもの自発的・意欲的な参加態度を育成する。</p> <p>○イベントづくりをする。(達成パーティー・スポーツ大会など)</p>

指導の努力点と方策	保健・安全	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の健康観察でその日の子どもの健康状態を把握する。 ○保健行事の検査から自分の健康に関心をもたせる。 ○休憩時間等に屋外で遊ぶことを勧める。 ○交通安全、危険な遊び、廊下の歩行等は約束事として指導するのではなく、自分や他人の安全のためであることが分かるように指導する。
	生活	<ul style="list-style-type: none"> ○明るいあいさつ・返事、聞く態度等の基本的な生活週間を育てるため帰りの会や日記を通して自己を振り返るように取り組ませる。 ○きまりや約束をきちんと守るよう指導する。
教室経営		<ul style="list-style-type: none"> ○採光や換気に留意し、整理整頓や美化に心がける。 ○掲示物は学習効果を考えて掲示する。(動く掲示・固定掲示) ○「個のよさ」が生かされる掲示の仕方を工夫する。 かがやき見つけの木・季節感のある背面掲示(作成は子どもたち)・係新聞 全員の習字・絵・工作などの作品の掲示
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ○学年・学級通信、メモ日記を通して、学校や学級の様子を知らせ、父母の理解と協力を得る。 ○家庭訪問・父母会・授業参観等の父母の交流を通して、信頼関係を深めるよう努力する。 ○必要に応じて電話、手紙等で連絡をとる。
☆各項目の○の中に取り組んだ月の数字を書き入れてチェックしておく。		
指導経過と反省	一学期
	
	二学期
	
	三学期
	

※ 各学期ごとに、学級経営案の各項目にそって診断・評価を実施する。ソシオグラムの作成を通して学級集団の実態をつかむ。実施時期は五月、十月、十二月を予定している。
問題点や改善点がでた場合、その都度改善していく。

V 授業実践

音楽科指導案 (個のよさを生かす学級づくり)

平成5年12月8日(水) 5校時

第3学年4組(男17名、女17名、計34名)

授業者 新垣 トシエ

1 題材 「お話を音楽で」

2 題材設定の理由

「個のよさを生かす」とは一人一人の個性を大事にすることであり、「個のよさを生かし全員参加する授業」をするには、①授業の中で子どものさまざまな表現活動を大事にする、②授業の中で子どもの役割(役立ち)活動を大事にする、③授業の中で互いに支え合い認め合う温かい支持的な風土をつくることが大切である。

この題材は中学年の指導内容6項目の中から「②曲想や音楽を特徴づけている要素を感じ取って工夫して表現できる」、「④音楽をつくって表現できる」、を中心に適切な音楽教材を選んでそれをもとに表現の工夫をさせたい。

子どもたちの自発的な活動としては、音楽から場面を想像したり、歌詞の内容からイメージをつかみ自由に音をつくって表現することを通して音や音楽に対するイメージを広げ、多様な音楽表現の可能性を求めていけるようにしたい。また、班活動の役割分担をすることでも個性を認め合い、支え合う支持的な風土づくりに役立てたい。

3 題材の指導目標

- (1) 音楽から場面を想像したり、朗読や音を加えたりして表現する能力を育てる。
- (2) 班活動を通して、「友だちのよさ」を見つけ協力し合う喜びを味わわせる。

4 評価の計画と方法

(1) 評価の規準

評価の観点	評価の規準
①音楽への関心 意欲・態度	ア ナレーションや歌詞内容、音素材の響きや音色に関心をもち進んで表現活動を楽しもうとしている。
②音楽的な感受 や表現の工夫	イ 場面の様子や登場者の気持ちを想像しながら楽曲のイメージを広げ、表現を工夫している。
③表現の技能	ウ リズムや音程に気を付けて歌ったり、表現の工夫のよさを感じ取って聴いたりしている。
④鑑賞の能力	エ 友だちの表現のよさや面白さを味わったり、表現の工夫のよさを感じ取って聴いたりする。

(2) 評価の方法

一人一人に応じた指導と評価、出番の回数（出番チェックカード）をその都度手短かに書き込める座席表を工夫作成し、活用していく。出番の回数の少なかったり、なかった子には意識的に出番の場をつくってあげるよう心がける。

5 教材について一略

6 児童の実態

- (1) 全体的に明るく、休み時間には外で元気よく遊ぶ子が多い。また積極的な子も多いが譲り合うことができず衝突してしまう子がいる。
- (2) ゲス・フー・テストでは、「学級の中でいろいろな子と仲よくすることができる子は？」で支持されない子が二人いた。その二人は友だちにいたずらをしておこらせたり、人のあやまちを許せなかったりすることが多い。だが、その子たちに対して、掃除が上手、係活動をまじめにするなど良いところを見つけてあげる子ができた。
- (3) 音楽に関するアンケート

ピアノ塾に通っている子	10人
歌うことが好きな子	21人
音楽の時間が好きな子	26人
リコーダーが好きな子	21人
班活動が好きな子	18人

※ ほとんどの子が音楽好きで音楽が聴こえてくると歌う子、体をリズムにのせる子、リコーダーでふく子などいろんな反応がみられる学級である。



7 指導計画（7時間扱い）

主題	お話を音楽で 教材群 ①おばけなんてないさ ②おかしなすきなまほう使い ③歌げき「けいきへい」じよ曲			
指導目標	音楽から場面を想像したり、朗読や音を加えたりして表現する能力を育てる。			
次 時	ねらい	学習活動	内容・てだて	出番
1	歌詞やリズムのおもしろさを感じ取って歌わせる。	①おばけなんてないさ 1 旋律を覚えて歌詞唱する。 ・範唱を聴いて歌詞やリズムのおもしろさを感じ取る。 ・拍の流れにのり、はっきりした発音で歌う。 2 班で歌い方の工夫を話し合う。	・身体反応させながら聴かせ、リズムの感じやユーモラスな歌詞の感じを感覚的にとらえさせる。（歌いたい子は小さい声でうたわせる） ・大判歌詞を見て歌う。 ・拍打ちをして、言葉にのせるようにする。 ・言葉をのせにくい部分（れいぞうこ・おばけだらけだっさ・そんなはなし）を繰り返し歌わせ、修正させる。（ペアで確認する。） ・役割分担により話し合いを進める。 個の考え→出し合う→歌詞カードに書く	4 教え合う 1 班役割 3 個の考え
次 5	アイデアを出し合い協力して練習させる。	1 練習する場所、ルールを知る。 2 各班で通し練習をする。 3 次時予告 分担した場面の発表	・机をコの字型にならべ所定の場所で練習する。 ※ルール ・リーダーを中心に協力してがんばること。（支え合うクラスに） ・時間を守る。（合図をよく聞く。） ・「おばけなんてないさ」の発表をしたときのように発表していく。 ・出番チェックカードを書いて提出する。	1 班役割 4 教え合う 6 協力して練習した。

☆出番 1 班役割（司会・記録・発表・連絡） 3 自分の考えを書く。 5 全体の場で発表する。
2 班内で意見をいう。 4 教え合う。 6 そのほか（拍手・係活動など）

8 本時の指導（6／7時間目）

(1) ねらい

班ごとに協力して楽しく表現ができる。

(2) 評価規準

- ・ 課題に対して意欲的に取り組んでいるか。（規準ア）
- ・ 友だちの発表をしっかり鑑賞しているか。（規準エ）

(3) 展開

学習活動	学習形態	でだて・留意点 (※基礎・基本、◎個への配慮)	評価の方法	出番	備考
①「おばけなんてないさ」「おかしなまほう使い」を歌う 「あのまほう使い」をリコーダーで演奏する。 ②本時のめあてを知る。	一斉 一斉	・リズムにのってのびのびと表現させる。(※姿勢、口形など) ・音楽係の指揮、伴奏で行う。 ・協力してしあげ、発表することを知らせる。	☆歌う様子を観察する(ア) ☆意欲的に取り組もうとしているか観察する。(ア)	6 表現係活動	・大判歌詞 ・座席表
協力して発表しよう。					
③班別に発表練習をする。	班別	・場所を指示し互いに支障のないようにさせる。 ・リーダーを中心に、発表を想定して練習させる。 (◎必要に応じて個人指導)	☆進んで参加しているか班間指導時に観察する。(ア)	4 教え合う 2 アイデアをだす。	
④班ごとに協力して楽しく発表する。 (音楽係が進行)	班別 個	・発表の仕方表現に使うものをもって右端にならぶ。 ①○班さんどうぞ。(静かにならぶ) ②リーダーの指示で始める。 ③工夫したところやむずかしかったところを発表する。 ④他の班は評価カードを書く。 ⑤他の班に感想を発表してもらう。 ⑥終わったら礼をし席にもどる(他の班は大きな拍手)	☆発表や鑑賞の様子を観察する。(アエ)	6 係活動 1 班役割(リーダーへ)(発表)	
⑤教師の評価を聞く。	一斉	・これまでの取り組みを含めて班ごとに賞賛する。		3 評価カードを書く。 5 感想発表 6 大きな拍手	・評価カード
⑥次時の予告を知る。	一斉	・出番チェックカードを書いて提出する。(評価カードも) ・CDを聴いてお話を想像することを知らせる。		1 班役割(連絡)	・出番チェックカード

(4) 評価

協力しながら練習をし、進んで発表できたか。

出番チェックカード
月 日 () なまえ

☆今日のアナタの出番はどれでしたか。

出 番	
1 班での役わり (司会・記録・発表・連絡)	
2 班内で意見を言った	
3 自分の考えを書いた	
4 教え合った	
5 発表した(班以外で)	
6 そのほか	

☆今日友だちの「かかやき」を見つけられましたか?
(はい・いいえ)

発表をきく時(歌唱) なまえ
班の発表をきいて①～⑤の中で、できていることに○をつけましょう。

項目	グループ	1	2	3	4	5	6	7	8
①静かにならびましたか。									
②言葉がはっきりわかりましたか。									
③くふうして歌っていましたか。									
④よい姿勢で歌っていましたか。									
⑤きちんとおじぎをしていましたか。									

発表をきく時(表現) なまえ
班の発表をきいて①～④の中で、できていることに○をつけましょう。

項目	グループ	1	2	3	4	5	6	7	8
①楽器は工夫されていましたか。									
②セリア・ナレーションは上手に言えましたか。									
③その役になって楽しく歌えましたが									
④協力していましたか。									

9 授業の反省

(1) 出番について

	1 班での役割	2 班内で意見を言う。	3 自分の考えを書く。	4 教え合う。	5 発表 (班外)	6 そのほか	7 ①通信②掲示③かがやき
1時	・歌い方の工夫についての話し合い (司会記録・連絡)	・自分の考えを言う。(ワークシートをもとに)	・ワークシートに歌い方の工夫を書く。	・拍の流れにのって歌ってるかペアで確かめ合う。		・様子を思い浮かべながら歌う。 ・音楽係	① ② ③ 3人
2時	・発表 (司会・記録連絡・発表)	・班練習でアイデアを加える。	・評価カードを書く。 ・おぼけの絵	・班練習で教え合う。	・発表の感想を言う。	・大きな拍手 ・音楽係	① 16人 ② 全員 ③ 13人
3時	・題材の表現方法の話し合い (司会・記録連絡・発表)	・自分の考えを言う。			・即興でナレーション・セリフを表現する	・場面を想像して歌う。 ・音楽係	① 12人 ② 各班・全員 ③ 9人
4時	・ナレーションセリフの工夫表現役割 (司会・記録連絡)	・自分の考えを言う。(ワークシートをもとに)	・ワークシートにナレーション・セリフの工夫を書く。		・まほうの音の表現	・音楽係	① 12人 ② 各班 ③ 6人
5時	・表現の練習 (リーダー記録・連絡)	・班練習でアイデアを加える。		・班練習で教え合う。		・協力して練習する。 ・音楽係	
6時	・練習、発表 (リーダー連絡・発表)		・評価カードを書く。	・班練習で教え合う。	・感想を言う。	・おおきな拍手 ・音楽係	① 6人 ② ③ 10人
7時	・連絡		・ワークシートを書く。		・曲のイメージ楽器について意見を言う	・曲を聴いて楽器の表現 ・身体表現	① 8人 ② ③ 12人
考察	連絡の役割は毎回出番があるが発表の役割の出番をあまり作らなかった。	班単位だとほとんど全員が意見を言うことができた。	話し合う課題を理解するまで、時間がゆかりワークシートを書く時間が十分でなく、すぐ意見を言っていた。	教え合う中で友達たちのよいところをみつることができた。	班活動を通して積極性がでてきて、ふだんおとなしい子や排斥されていた子が発表するようになった。	音楽係は毎回出番があった。にたりたり歌ったり拍手したり発表をきいたり身体表現したりできた。	上の数字はその出番に関わった子の数。③かがやきを見つけた子は10人の特定の子たちである。

(2) 出番についての反省と課題

- ・ 毎時間どの子にも出番があった。
- ・ 楽器の工夫、絵の仕掛、表現などで「個のよさ」が生かされていた。
(なべのふた・ビン・紙袋・風鈴で魔法のかかる音の表現、変身する絵、熱演した魔法使いの役、音楽にのせた振り付け)
- ・ 出番づくりをしたことで排斥されていた子が「絵が上手」というよさを発揮でき、班の子たちに受け入れられた。
- ・ 班の役割を交代で経験したことによって、ふだん目立たなかった子のよさが認められた。
- ・ 今回の音楽の授業で、子どもたちは班活動の中から出番の楽しさを感じとっていた。各教科での話し合い、共同制作、練習ごとなど班活動に適した場面を多くつくり、定着させていきたい。
- ・ 「かがやき」を見つけることのできる子は、はじめ数人だったが、教え合う・アイデアを出しあう・班活動するなどの出番が多くなると、「かがやき」を見つけることのできる子もふえた。見つけた「かがやき」をみんなにも紹介していき、全員が「かがやき」を見つめられる子にしていきたい。

(3) 授業研究会からの反省と課題

- 出番の配慮がなされていた。やる気を起こさせ「自ら学ぶ力」へのつながりになるだろう。
- 個への対応が十分なされていた。基礎基本が定着していくだろう。
- 感想を発表するときは、語尾までしっかり言えていたのがよかった。
- 授業者自身、説明のとき早口になったり、班練習のとき手をかきすぎた。もっと、係の子やリーダーに任せるとよかった。
- 評価カードなど聴きながら書くというのは、三年生にはむずかしかったように思われるので、発表を聴いた後に書く時間を与えるべきであった。(書かせるタイミングが大切)
- 発表を聴いた後、感想を発表させる時間をもっともうけた方がよかった。

H・T 719z ①	Y・N 719z ⑥	S・M 719z ④	H・U 719z ③	Y・T 719z ⑥	M・Y⑥ 719z ⑥	T・Z 719z ⑤	Y・N 719z ③
J・T 719z ⑥	T・M 719z ③	H・N⑥ 719z ⑥	T・S 719z ①	M・H 719z ⑤	S・M 719z ⑤	A・T 719z ⑥	S・Y 719z ③
K・N 719z ①	Y・M 719z ③	T・S 719z ①	M・O⑥ 719z ④	K・O 719z ②	A・T⑥ 719z ②	N・A 719z ②	N・T⑥ 719z ④
N・S 719z ③	M・N 719z ①	E・S⑥ 719z ②	G・T 719z ④	Y・K 719z ③	R・T 719z ①	W・K 719z ②	N・U 719z ④
		H・H 719z ④			Y・T 719z ①		

〈座席票〉



〈係活動〉



〈風鈴でまほうのかかる音〉



〈しかけの絵〉



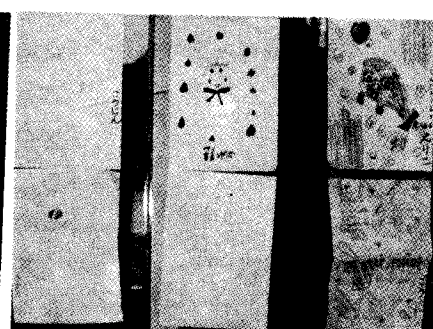
〈熟演したまほう使いの役〉



〈しかけの絵〉



〈なべのふたでまほうのかかる音〉



〈個のよさがみえるおばけの絵〉

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

これまで漠然としていた学級経営が「個のよさを生かす学級づくり」の研究を進めていくうちに整理されてきた。

「個のよさ」を生かす方法・班活動のあり方進め方・ほめ方叱り方・学級通信などの理論研究をふまえて作成した「個のよさを生かす」学級経営案は大きな収穫であった。

授業実践では、教師が計画的に意図的に手だてを与えると、子どもたちは生き生きと活動できるということを実感した。「個のよさ」を生かすも生かさないも、教師の接し方一つで決まることもわかった。

授業前後のアンケートで「音楽の時間が好きな子」26人→34人、「班活動の好きな子」18人→34人という子どもの変容から、自分に出番があって、認めてもらえるということは、子どもの興味・関心・意欲も高めていくということがわかった。

2 今後の課題

- 「個のよさを生かす」学級経営案を実践し、さらに子どもの実態にあうように工夫・改善していく。
- 班活動を定着させ、自主的に活動させるための具体的な手だてや、個が生かされる出番を考え実践する。（朝の会・帰りの会・係活動・給食掃除当番・家庭学習の仕方・年間計画）
- 子どもたちが、のびのびと個性を出せるように、支持的な風土を育てる心がまえをしっかりと持ち学級経営を進めていく。

3 おわりに

今回の研修は、自分自身の実践を省みるよい機会となりました。当研究所で得た知識や理論をもとにまとめていった学級経営案を早く実践してみたい気持ちでいっぱいです。

「個を生かす」学級づくりをするために、絶えず工夫・改善していく情熱をもって、子どもたちに接していきたいと思います。

研修期間中、ご指導と励ましを下さいました県立教育センターの指導主事、與古田清正先生、当研究所所長、嘉手川喜郎先生をはじめ諸先生方に心より感謝いたします。

〈参考文献〉

宇留田敬一編集	「特別活動指導法事典」	明治図書	1984
全国教育研究所連盟編	「個を生かす教育の実践 上」	ぎょうせい	平成4年
香川・石川・細野・辰野編著	「ほめて伸ばそう、ほめ方叱り方のコツ」	東洋館出版社	平成元年
片岡徳雄	「個を生かす学級を育てる先生」	図書文化	平成3年
倉田侃司	「個のよさを伸ばす小学校の学級経営」	明治図書	1991
高階玲治編	「自己教育力を育てる小学校の学級経営」	明治図書	1991
藤原久雄発行	「教師の個性を生かす学級経営案事例集」	明治図書	1987
片岡徳雄・倉田侃司	「全員参加の授業づくりハンドブック」	黎明書房	昭和59年
片岡徳雄	「全員参加の学級づくりハンドブック」	黎明書房	1981

平成5年度教育課程研究集会研究報告書小学校音楽